

デーリー東北

2026年(令和8年)9月19日(土曜日) (14)

映画上映 三陸を活性化



自主上映活動の意義などを語り合ったシンポジウム

「シネマジャーニー」シンポ

階上

階上町の交流施設「わたしの素ベース」で12日、映画上

映企画「三陸シネマジャーニー2026夏」のシンポジウム「映画館の外から、地域を照らす」が開かれた。三陸各地で自主上映などに取り組む関係者ら4人が登壇し、上映など文化活動が地域にもたらす意義について活発に意見を交わした。(佐藤周平)

三陸シネマジャーニーは、1などで、多彩なジャンル8月7日から9月13日まで、の15作品を上映した。開催。八戸市・宮城県石巻、階上町の会場では洋画市間の三陸沿岸にある8市「アフターサン」の上映に町のコミュニティシアタを引き続き、シンポジウムを

行った。登壇者は従来の映画館の枠に当てはまらず、自主上映も含めた多様な文化活動を展開する施設を「オルタナティブスペース」と定義。8市町の各スペースでの活動や、連携する価値などを語り合った。

進行役を務めた八戸工業大感性デザイン学部の戴周杰助教は「小規模な、民間主体で運営されること

4人登壇、多様な文化活動熱く

なハブとなりコミュニティ形成に重要な役割を果たしてきた」と指摘。「人口減などの課題に直面する東北地方で、各地のスペース同士が横につながること、観光や経済を含めた地域活性化の鍵となる」と期待した。

登壇者のうち、わたしの素ベースを運営する合同会社「HASH Living」の上野まりほ代表は、旧みそ蔵を改修した同施設で特色あるワークショップや催しを展開していることを紹介。「この場所に魅力や親和性を感じ、町外からも訪れる人が増えているのがうれしい」と述べた。

企画の発案者で、岩手県宮古市の「シネマ・デ・アエル」プロジェクトの有坂民夫代表は「三陸沿岸に常設映画館がなくなり、経営的に難しい中、どう上映活動を継続させるかを模索してきた。楽しいことをしたいという意地かもしれない」と笑顔で語った。

石巻市の小劇場「シアターキネマテイク」の成り立ちや、多彩なエンターテインメント活動の様子を追った短編映画「CITY LIGHTS」も上映。大学時代に卒業制作で監督した福原哉太さん(仙台市)は「もっと若者がこういうスペースの運営に関わり、創作発表などができれば地域に愛着を持つことにつながると思う」と力を込めた。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。